反天皇制運動
Alert
特別号
［通巻 440 号］
2021 年
5 月 25 日発行
第Ⅹ期・反天皇制運動連絡会

動物（あにまる）談義◉〝女性・女系天皇で再定義!?〟の巻＊2
特集●あにまる反天連を振り返る、総括する、前を見る
◉花の命は短くて――鰐沢桃子＊5
◉見る側から見られる側への逆転向――黒薔薇アリザ＊6
◉三七年間の歴史――運動／思想〈経験〉史の発掘へ――天野恵一＊7
◉ニュース、ニュース、ニュース――桜井大子＊9
◉私の「運動〈経験〉」――中村ななこ＊10
◉視えないが・たぶん・おそらく・そこにある「意志」：）――蝙蝠＊11
◉雑記・反天連周辺をうろついてきて今思うこと――反天連周辺・中嶋啓明＊13
◉「これはある原稿の続きです」――北野誉＊15
【資料】各期反天連設立時に立てた「主旨・設立の目標」＊16
野次馬日誌＊18
集会の真相＊20
神田川＊20

●反天皇制運動連絡会
東京都千代田区神田淡路町 1-21-7 静和ビル 2A　淡路町事務所気付　落合ボックス
TEL/FAX 03-3254-5460　URL http://www.ten-no.net/mail: hanten@ten-no.net
●以前の情報はこちら▶ http://hanten-2.blogspot.jp/

梟　久しぶりの動物談義。まずは眞子結婚騒動からいきますか。眞子の結婚は3年前に延期されたままで、最近相手の小室圭から借金問題について借金ではなかったといった膨大な文書が出たり、ゴタゴタが続いている。

熊　強固に結婚に反対していた母親の紀子が折れ、結婚させる方向で動き出した。その結果が小室文書なわけで、それは宮内庁も合意の上。

貂　その後、宮内庁も寝耳に水の「解決金」を母親の元婚約者に渡すとか渡さないとか、新しい話も出てきたよね。

羔　だけど相手は受け取らないと言い、小室文書にはない話も出てきて、また強烈な小室バッシングが始まっている。

梟　記事で気になるのは、秋篠や天皇たちの「国民に納得してもらえる結婚」というセリフ。

蝙　憲法二四条を秋篠が出した段階でそういうのはすべて吹っ飛ぶはずでしょう。それにもかかわらず、だよね。

熊　秋篠の「納采の儀」はやらない発言も、二四条を出したことと矛盾している。

羔　一時金が税金であるとか、「小室宮」みたいなのができちゃうんじゃないかとか（笑）、あんな男が皇室に入っちゃうとか、そういう「危惧」が「国民」にはあるのよね。

蝙　一億五〇〇〇万なんて、一方で自民党は広島の河井夫婦にポンと出したりしちゃっている。

貂　東京でちょっといいマンション買ったら、すぐなくなっちゃうような金額ではある。

熊　だけど、そういう特権をもっているということの構造的な問題は別の問題としてあるよな。ふざけた野郎だと思うのは当たり前。ただ、バッシングの論理は神聖な天皇家にあんな男を入れていいのかみたいな話で、そのことの方が問題だよな。

梟　「国民に納得してもらう」の意味はそれだし。

羔　あの小室が将来の天皇の義兄になるのか、天皇家に入れていいのか、とかね。

熊　現代の「神聖にして侵すべからず」。

蝙　そんなことといったって、ちょっとひっくりかえせばマスコミネタになるような皇族のゴシップくらいいくらでも出てくるのに。

熊　結局制度がそうなっていることの問題だよ。ものすごく特権的であることと、あらゆる自由が制約されていることがセットの存在なわけで、その制度全体のグロテスクさがいろんな問題を起こしている。そのことを問題にしないで、神聖な制度を侵すなという話になる。

梟　従来ならば女性皇族は結婚したら「民間人」となるわけだけど、女性宮家が成立したら眞子が外に出るのではなく小室が入ってくる。宮家でなくても「皇女」という特別の社会的身分を得れば、「失敗したねー、あの男と結婚して」とか言われるだけではすまないことになる。

貂　一度出ちゃった天皇の妹・黒田清子もそういう扱いになって、いまはただの黒田さんだけど「皇女」として復活するなんてこともあるよね。

梟　結婚しても皇室と縁が切れるわけではなくなるので、女性皇族の結婚にも宮内庁は慎重にならざるを得ない。男系・男性主義に凝り固まった日本社会では、結婚といえば小室家の「嫁」になるという発想になるし、眞子が宮家をたてそこに小室を迎えるとしても「あんな男に

皇室で力を持たれるのでは」となる。いわゆる外戚の脅威とかいうやつ。それってみんな男系・男性主義の発想なんだよね。

蝙 右翼はみんなそれが頭にあるから、別姓婚もいやだ宮家もダメとなる。

羔 先日、あるバーのおにいさんが、「俺も皇族と結婚できないかなあ。なんで小室ができて俺ができないのかな」と言ってたんだけど（笑）。ああいう特権とお金に逆玉的に、ああいうあやかりたいと思っている人はいっぱいいるわけよね。

梟 でもメディアはそういう発想自体に侮蔑的だよね。小室母子に対するバッシングでも、セレブな生活に憧れているだとか、プリンス気取りだとか、書き立てている。

熊 貧乏人のくせにという話で、貧乏人が這い上がろうとすることに対する嘲笑。気分悪いよな。

蝙 資本主義とか新自由主義とか、本当にそれを突き詰めていけば実力主義でよしとなるはずなのに、たとえば竹中平蔵すらその出自を言い立てられたりする。安倍晋三のような銀の匙をくわえていたような奴がコネだけで権力に居座る。そういう社会だから、小室なんか書き立てられちゃうんだよな。ネット上では、目が腐るクソネタで山ほど書き立てられている。

熊 結局、二四条が適用されない人間たちがいるってことの証明だな。しかし、天皇制批判ではなく天皇制愛好家の中の悪口という構造の、こういう皇室スキャンダルはいつ頃から始まったんだろうな。右派メディアで派手に書き始めたのはそんなに昔のことではないよな。

梟 美智子バッシングの時から右派メディアの悪口はあったけどね。美智子の時にはツールとしてのインターネットが発達していなかったからこうはならなかったけど、構造は同じだと思うよ。

貂 メディアにおける彼らの露出については、彼らも意識的にやっているし、「国民」も喜ぶというような状況をつくっているわけじゃない。

熊 メディア受けは自覚的にやっている。政治家もそれを考慮しながら天皇制を使っていくなかで起こっている現象ではある。裕仁の時代にはなかったことだ。

貂 やっぱり明仁以降だよね。子供の時から、結婚も含め、露出し続けている。美智子も含めて土壌を作ってきた。

梟 明仁と美智子はメディア受けを考えてきたけど、徳仁と秋篠はメディアを使う。そこがちょっと違うのでは。どう写るかではなく、どう使うかと言う風に変わってきているように思う。秋篠はＮＨＫとのルートを持っているとか、リークさせたとか語られているけど、ある程度本当だと思うよ。

熊 それは明仁の時からメディア受けを丁寧にやることで、必然的にメディアとのコミュニケーションを考えたりしていた。リークも本人が宮内庁を使ってやったり。やっぱり明仁からだと思うな。そのことの余波でこういう問題が起こっている。イギリスの話だけど、ダイアナスキャンダルの時のＴＶ番組をみたことあるけど、すごいよ。人形劇仕立てで、王族は完全に全国民のおもちゃなんだよ。みんな下ネタで遊んでいた。

蝙 ダイアナはパパラッチにヌード写真なんかまで出されていたからな。

梟 いや、出されるだけでなく、逆に単独インタビューを受け、カメラ目線で話したり、メディアを使いまくっていた。

熊 イギリス王室は完全に自覚的。国民の王室との関係意識も、尊敬・尊重と遊びが共存していて、ある種の愛好の表現としておもちゃにしているってところはある。

貂 ヘンリー・メーガン報道もいろいろある。

バッシングの基本的な構造は小室と似ているんだけど、あっちの方はみんな楽しんでいるよね。

羔　王室批判やメーガンへの同情の声も報道されている。

熊　イギリスには王室愛好家はいるけど、王室右翼はいないんじゃないのか。

蝙　少なくとも日本型の社会ではない。

梟　世界の憲法を少し調べたことがあるけど、君主国の場合でも、たいがいは主権者は民であることをちゃんと書いてあるわけよ。日本の場合は主権在民規定の独立した条文はない。「天皇条項」で天皇が象徴であることを説明する部分に「主権の存する国民の総意」が登場するだけ。社会的な意識がぜんぜん違ってくると思うな。

熊　戦前からの連続性は憲法を作る方はものすごく意識して作っているからね。

蝙　今後はどっちにしろ「皇室典範」をいじらなくてはならないわけで、どういう風にいじられるかで、また一つ流れが変わってくるよね。

貂　今回の有識者会議はどんな感じ?

梟　一応、会議は開かれていて報告も出てはいるよね。だいたい男系男子路線と女性・女系容認の半々。普通に考えれば選択肢は女性・女系容認しかない。世界的にも認められるし。

熊　女性天皇制にすることで象徴天皇制の再定義は完了するんだよ。

梟　2・23のシンポで私もそのことを言ったけど、男系主義が前提の「万世一系」から、その前提をなくすという再定義。

熊　「一系」であればいいじゃないかと、けっこうみんな簡単に流れるよ（笑）。

蝙　美智子の貢献度を考えれば、女性天皇なしなんてあまりに非常識でしょう。

梟　右翼は学習しないよね（笑）。されても困るけど。

熊　いや、しているよ。生前退位の時だって是非は半分に割れた。それに、神権的・天皇主義的イデオロギーに、女性天皇への抵抗感はそんなにないかも。

梟　そうなったときの私たちの立論だよね。

熊　やはり、超特権的であると同時に超非人間的なシステムであるというこの構造の問題で立てるしかないと思うよ。女性天皇制でフェミニストが万歳していくという状況もでてくるけど、このかんリベラルがみんなあっちにいったのと同じことで、挙国一致の天皇制ができてくる。

貂　む～、確かに象徴天皇制の完成形だ。

熊　戦後民主主義と天皇制が親和的になっていく最後の入り口。

貂蝙熊羔梟　ギャッ、ガウガウキーキーメーメーホー！

特集 あにまる反天連を振り返る、総括する、前を見る

■1984年の反天連立ち上げから37年。第Ⅰ期は7年、最後の第Ⅹ期が5年。あとはほぼ3年を区切りに解散と再結成を繰り返してきた。その間、実にたくさんの人たちが関わっている。どの期の反天連でもその時の事務局だったメンバーたちは、いろんな形で関わりながら反天皇制運動を担ってきた。
■本特集には、本来ならそういった人たち全員に登場してもらいたい。だが、連絡が取れない人、亡くなった人、ほか諸々の事情で不可能なのだ。だから、たくさんの人たちが反天連を支えてきたということを記し、記憶し、ここには今現在の、いろんな形で事務局を支えるメンバーが登場する。創設メンバーから超新しい仲間まで、反天連解散を前にそれぞれの思いなど好きに書き散らすこととした。まあ、反天連らしいやね。
■なお、原稿掲載は入稿順。

花の命は短くて

鰐沢桃子

久しぶりに原稿を書くためにPCに向かっている。反天連ニュースが終刊を迎え、今回特別号を出すにあたって、「反天連と私」「反天皇制運動と私」というようなテーマでということだが、とても個人的な回想に終始してしまうかもしれない。

私が生まれて初めてデモに参加したのは、佐藤満夫さんと山岡強一（山さん）さんが天皇主義右翼に殺された直後の八六年の山谷のデモだった。それまで参加どころか、デモを見たこともない私は、知人に連れられそこにいた。

「女性や力の弱い人は隊列の中に入って！」と叫ぶ言葉の意味すらわからなかったが、咄嗟に「この人の側にいれば大丈夫！」と殺気立ちざわつく人ごみの中から一人の人物の姿を見つけ、横にくっついたのが面識はなかった天野恵一だった。スクラムを組みジグザグデモが始まった直後に言葉の意味を理解したが、時すでに遅し。懸命に踏ん張ったのを覚えている。

反天連が結成されたのが八四年。私はその当時、桜井大造率いる『風の旅団』の芝居と出会い、上演される内容もそうだが、その界隈に集まる人々の会話から、戦犯天皇、反日武装戦線、狼等々の言葉に触れた。

思想や運動という政治的な意識を持ってその界隈に近づいたわけではまったくない。けれども、こうやって時間をさかのぼってみると、「天皇制」を標的とする運動がはじまる空気を体感していたように思う。

山さんが殺された後、不思議な縁で私は山さんのお連れ合いの山岡照子さんと密接な時間を過ごす。射殺というショッキングな出来事で、突然大切な男（ひと）を奪われた照子さん。「山谷」の運動は二人の人間が殺され、緊迫し殺気だった状況だった。その地に立つ時、照子さんは背筋を伸ばし、前を向いて泣き顔など見せてたまるかと踏ん張っていたんじゃないかと思う。だから、そんな緊張を開放できる場所を必要としたのだと思う。山さんが殺された大久保の交差点と住まいである戸山ハイツの中間地点にあった、私が暮らすあの二間のアパートに照子さんは入り

反天皇制運動 NO.1
84.4.1
¥100
編集・発行：反天皇制運動連絡会
連絡先：東京都杉並区高円寺北3-1-6 高円寺BOX
郵便振替：4-131988 高円寺ボックス事務局

浸たった。あの時ともにすごした時間は、天皇制の持つ暴力性を思想や理屈ではなく私の体内に浸透させていく。

映画『狼をさがして』のパンフレットに太田昌国さんは、「圧倒的多数の大衆が生きている日常的な場を、どう捉えて、どうするつもりなのか。そこを置き去りにした『革命』が、どう、可能なのか」と書いている。

あの火傷しそうに煮え滾っていた山谷で、私は圧倒的多数の大衆の一人として存在していたように思う。野次馬的視点でしか存在できなかった私。人民パトロールでは道ばたで寝ている人に「先輩」と声をかけてと言われた。声をかけることは出来る。でも生活の苦労などしたこともない二〇代の私には「先輩」という言葉を発することが、偽善者になるような、強烈な違和感を覚えた。

公園での集会だったんだろう。ヘルメットを被った活動家の言葉が、路上に横たわる人々の頭上の宙を舞って虚しく青空に消えて行くように感じた。

反天皇制運動
SPIRITS
1
第Ⅱ期・反天皇制運動連絡会

二〇〇八年から反天連の事務局として一三年間活動させてもらった。その間ですら、私は常に圧倒的多数の大衆の一人であったように思う。運動が生活の主軸になっている「活動家」。その視点との距離を常に感じ、それが蓄積されて行く時苦しくなった。そしてそれは私のコンプレックスでもある。

二〇一九年の秋、家族以外に誰にも会わず、引きこもっていた照子さんが、私に会うという。全身を癌に侵された照子さんと、三〇数年振りに病室のベッドに並んで腰掛けた。何気ない会話の途中で、唐突に「おまえは今のままでいいってことだからね」っと私に言い聞かせるように、言ったのだ。そして照子さんはその数日後に亡くなった。

強烈な女性（ひと）だった。世間の常識などどこ吹く風。でもその視点はどこまでも優しかった。

天皇制とは私にとっては暴力以外の何物でもない。

見る側から見られる側への逆転向

黒薔薇アリザ

わたしはかつて右翼だった。「大正」生まれの祖母は元軍国少女で、「昔はよかった。戦争に負けてから悪くなった。天皇陛下は尊い存在だ」と語り聞かせてくれたし、世界史の先生はソ連や共産主義の悪口を言っていたし、大学は皇學館だったから、皇国史観や国家神道的教育も受けた。学生時代に反天連のデモに遭遇して、「昭和天皇を串刺しにするなんて、何て下品な人たちだろう」と眉をひそめた記憶もある。天皇の存在は日本らしさの象徴で、皇室の祈りが国民国家の安寧を支えていると当然のように信じていた。今どきの若者は程度の差はあれ、そんな似たような状況に置かれていると思う。

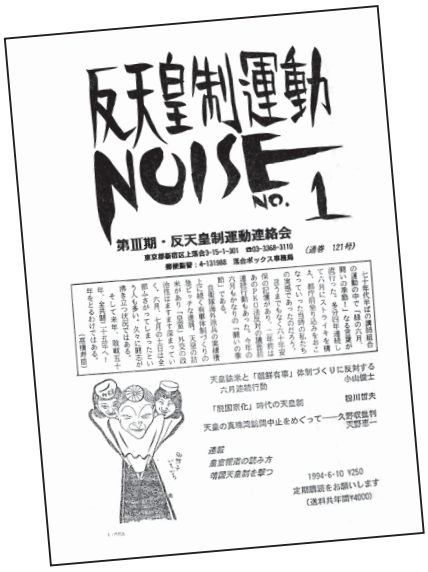
そんな安直な認識を崩したのは、杉田水脈のLGBTに対する生産性発言だった。なぜ保守や愛国者を名乗る人々が、多様な「国民」を愛せないのか。三島由紀夫もゲイだったではないか。なぜ生産性を求め、同性婚に反対するのか。

その究極的な理由は一つだった。LGBTが天皇家というロイヤルファミリーとは対極の存在だからだ。天皇は男系男子しかなれず、皇后は甲斐甲斐しく天皇を支え、お世継ぎが求められ、皇族は品格ある態度で生活させられ、皇族女子は結婚すれば皇籍離脱させられる。そこで

初めて、天皇制には明確に身分差別と性差別と血統主義があることに気付いた。そして日本帝国は、この天皇家という存在を利用して、アイヌや琉球を侵略支配し、右翼は在日韓国人やLGBTを叩くのだ。すべての元凶は天皇という存在にある。彼らを税金で養い、彼らの生活をテレビで映し続ける限り、家族的あり方と男女の性差は国民に洗脳され続けるのだ。

しかし、いきなり共産主義者にはなれなかった。そこで歴史を学ぶうちに、アナ・ボル論争の存在や大杉栄に興味を持ち、彼が影響を受けたバクーニンを調べてみた。保守の勝田吉太郎が書いたバクーニン伝は、マルクスと対峙したバクーニンを反共・防共目線で取り上げており、とっつき易かった（今では偏りを感じるが）。わたしはアナキストたちのスケールの大きい、色気ある生き方に惚れた。いつしか黒旗を掲げ、エスペラントを学び出してから四年が経つ。そして、一昨年の冬、初めて反天連のデモに参加した。かつて、下品な人たちだと路傍で見ていた自分が、今や右翼や体制側から、そう見られる存在になっている。「国賊」上等だ（笑）。右派系大学とはいえ、歴史を学んだからこそ近代国家の天皇制という造られた伝統にも犯してきた侵略責任にも気付けたし、もう右翼の頃の自分には戻りたくない。

最年少の参加者として、反天連の解散は惜しいし、もっと早くから関われていたらと後悔もある。しかし、今だからこそ出会えた人も多いし、わたしはこれから次世代の反天皇制運動を作っていかなければいけないのだ。反天の実行委のデモも、学習会も形を変えて今後も続く。三〇余年の反天連の蓄積とノウハウを学び、未来に活かしてゆきたい。


反天皇制運動
NOISE No. 1
第Ⅲ期・反天皇制運動連絡会
東京都新宿区上落合3-15-1-301 ☎03-3368-3110 （通巻 121号）
郵便振替：4-131988 落合ポックス事務局
天皇誕米と「朝鮮有事」体制づくりに反対する六月連続行動 小山俊士
「脱国家化」時代の天皇制 田川哲夫
天皇の真地鴻動開中止をめぐって——久野収氏判 天野恵一
連載
皇室問題の語り方
明治天皇制を問う
1994-6-10 ¥250
定期購読をお願いします（送料共年間¥4000）

三七年間の歴史
——運動／思想〈経験〉史の発掘へ

天野恵一

一九八四年三月一日の日付のある「反天連」ニュースの〇（創刊準備）号には、「結成呼びかけ文」の後に以下の文章が付けられている。

——主旨——

1：主要に、Xデー及びXデー準備と対決する大衆的反天皇制運動の形成をめざす。

2：反天皇制の諸運動に関わる情報の交換—分析、経験交流、学習を行う。

——運営の申しあわせ——

1：基本的な運動方針は、定例の事務局会議で決め、会員全体に提起する。事務局会議は、随時、拡大事務局会議（会員総体に開かれた会議）とする。

2：会費は個人一ヶ月（五百円）以上、団体は二口（千円）以上とする。

3：会員とは、主旨に賛同し、会費を納めた者である。

4：会は大衆運動の原則に従って運営する。

二〇一一年三月二日が通巻４３９号のニュース（最終号）の日付である。この三七年間、コンスタントに刊行され続けた月刊ニュース、さらには大量につくられた「反天連編集」の機関誌を中心としたパンフレットの中に、「反天連」の行動と思想はほぼキチンと記録されている。今、これらをまとめて読みなおし、総括的なことを語る時間はない。私個人は、いくつかのあたりなおし、新しく発見することが多い〈自分

自身の歴史なのに!〉ことに驚く体験をこの間しており、キチンとまとめて再読し、運動〈経験〉史を整理しなおす事は、私に残された大きな課題と考えてはいる。

このことができる唯一の証人として、ここで報告しておきたいのは、この三七年間は、基本的にはここでの「運営の申しあわせ」通りに会は運営され続けたという事実である（定例の会議は毎週火曜日は不変で続けられた）。もちろん、会議はすぐ団体参加はなくなり、個人参加のみがベースになったこともあり、会費は変化したし、運動資金の多くは個人カンパと、大量のパンフの売り上げ（文字通り飛ぶように売れた時代もあった）がベースで運営されるというような変更もある。

それと、もう一点「大衆運動の原則に従っての運営」の具体的内実であるが、私たちは、内的には事務局メンバーには政治党派（この場合、新左翼セクトを主に考えていた）はお断りの〈原則〉を立てていた。私は、入りたいという申し出を受けた党派系団体メンバーの人と会い、私たちの〈内的ルール〉にそって、お断りするという作業を何度かした記憶がある。もちろん「反天連」などの呼びかけでつくられた「共同行動（実行委）」運動は、いろんな党派の人々と当然にも広く共闘し続けた（もちろん、そこにも、「内ゲバ」を正当化しているセクトは一切お断りは原則であったが）。

さて、闘病生活も一〇年を軽くオーバーしてしまった今、私は七〇歳代に突入している。歩くことが困難（あたりまえの時の三倍近くの時間がかかっている）、すこぶる精神的にも不安な（右翼の暴力で突出する現場にはヒヤヒヤの参加の繰り返しの）まま、なんとか、今回の「代替わり」の政治プロセスでの反天行動にはギリギリの線でコミットし続けてきた。自分の肉体が担えない行動方針を論議することは一切せず、広く動きまわることは不可能というヒドイ条件であったが、なんとかやりきれた。「反天連」は運動（行動）をつくる団体と自己規定してきたグループである。そして、私はその中を全力で生きた。病に老いが重なり、もはや、かつての現場行動づくりはますます不可能と自覚した。私の「反天連」は、この二度目の「代替わり」闘争をもって〈終わり〉にする。つい数年前、私はそう決意した。

〈行動を伴わない、運動の現場を生きない、いっさいの思想（理論）は信用するな〉。これは六〇年代末の進歩派知識人・御用知識人批判を軸にした学生叛乱の時代に運動の人生に入った私が、その時以来手ばなしたことのない「戒律」である。

私は、今、「会議・デモ・諸集会」づけの行動現場をフルに生きる体力を失い、今までの「現場」を失いつつある。さて、どうする?

私は今、コロナ感染状況下での小さな、あるいはオンライン中心の集まりで、運動史をまとめて話す機会が飛躍的に増大している。そこでの作業で明日、明後日の運動方針へ向けて、急いでふりかえられる歴史（過去）という現場のリズムとは別の総括が、いろんな政治社会的条件を広くみわたした、それなりの「客観的」な〈運動／思想経験〉史が、自分の歴史の中から、発掘されてきているという実感を、持ち出している。

二度目の「代替わり」の反天皇制運動を通して、今回の「代替わり」のプロセスは、前回、天皇制批判の声が運動が社会に大量に噴出した事実

を（より広くいえば、戦後に存在し続けた反天皇制運動の歴史をトータルになかったことにすべく）隠蔽する、時間であった。そのように歴史を偽造する、隠蔽しきれなければ、ひたすら曖昧なものにしたてあげる、そういう政治操作の時間であった。

私は、この隠蔽・偽造・曖昧化という政治操作（歴史の書きかえ）に抗し、反天皇制運動の思想と行動の〈経験史〉を歴史的に発掘し、現在の状況の中に露出させる作業こそが、私に可能で、私たちにしかできない重要な作業であると実感し出している。この作業への集まりの場（メディア）づくりが、私の年齢相応の次の〈現場〉づくりであると思う。

デモ・集会というストレートな「現場」への参加協力の態度は持続しつつ、自分の全力投入すべき新しい「現場」づくりに向かいたい。時間が残されていれば。

ニュース、ニュース、ニュース

桜井大子

私が反天連の会議に参加し始めたのは一九八八年の春だったと思う。私が見たり感じてきた反天連は時とともに変わってもきている。ネガティブなことも含め思うことはいろいろあるし、若い頃は面白いけど居心地がいいだけのところではなかった。それでもい続けたのはなぜだったのか。

反天皇制という課題から離れられず、メンバーのキャラクターや運動の面白さも魅力的だった。会議も興味深くエキサイティングだった。それでも、いろんな意味でひどい環境の中で、なぜ三〇年以上もここでやってこられたのか、と今更ながら思ったりする。

明仁の代になって戦争国家化が本格化していくし、皇室外交は頻繁化した。あるいは皇族の結婚や出産、女性天皇問題等々と、私の課題も増えていった。とにかくひっきりなしに新しい課題が湧き出てくるし、多忙を極めているうちに年月が過ぎていった。そして、その行動の過程で作り続けたニュース。作っては発送、発送したらすぐに原稿依頼、そして作っては発送。ひと段落するまもないまま、やはり年月は過ぎていった。結局、私が反天連にい続けた理由なんてこんなことなのか……？

私は一九八九年のリニューアルしたニュースから作業に参加している。基本的にメンバーはほぼ全員参加だった。泊まり込みが前提の作業はしんどくも面白かった。今では考えられない手書きとワープロ原稿の切り貼り版下で、発送は部数も多く、煩雑な作業が多かった。時代（技術）とともにその過程は合理化され、それはメンバーの加齢と比例し、まじ助かった。いずれにしろ、このニュースが自分たちの運動と社会を繋ぐ文字通りのメディア（媒体）であった。それもこれでお役目御免だ。

ニュース作業では雑多なトラブルが頻繁に起こった。取るに足りないつまらないトラブルも、その時は切羽詰まった事態であり、短時間でなんとかクリアしなくてはならないことばかりだった。それらは多くの場合、最終的に笑って終わった。ニュースを一緒に作っていたメンバーとの信頼関係や結束力は、ここで培われたのに違いない。

もちろん困難な事態が生じるのはニュース作業現場だけではなかった。「さあ、どうする!?」と顔を見合わせるような局面もあった。結果の

反天皇制運動
PUNCH!
第V期・反天皇制運動連絡会
http://www02.so-net.ne.jp/~hanten
e-mail: hanten@sna.so-net.ne.jp
1号 [通巻196号] 2000.11.14
主張◇反天連第V期活動開始！ ―参加を、協力を！＊2
状況へ◇反天皇制運動と共和主義 ―伊藤晃＊4
在日外国人の参政権をどう考えるのか ―木元茂夫＊6
反天運動月報◇「日の丸」と明文改憲＊8
お子代縛り／コラニもコラム／野次ウマ日誌／書評
ネットワーク／日韓・日朝ウォッチ／集会ちゃんぷる～
250円 ●定期購読をお願いします（1年分を郵便振替で） ●郵便振替 00140-4-131988 落合ポップス事務局
連絡先 東京都新宿区 上落合3-15-1-201 TEL/FAX03-3368-3110

良し悪しについてはいろいろ判断はあると思うが、みんなが頭や胸を痛めながら結果を出していった（と思っている）。それもこれも含め、エネルギーが満ちていたし、私はそういう運動のあり方に信頼をおいていたようにも思う。

反天連は右翼から名指しで攻撃されることで、大きな全国組織のように勘違いされることもあった。実際は偏屈か偏狭と思われている者が集まっている小さなグループなのに、と笑いあった。でも今思うに反天連の協力会員やニュース購読会員は全国にたくさん（？）いたのだった。

事務局メンバーはみんな、その時々でリーダーシップをとったり、支えてきた。顔を突き合わせて状況分析したり、方針を考え行動を提起していく。事務局はこの小さな運動体を動かし支えることで、他との共同行動をつくりだしてもきた。誰もが大真面目に取り組んできたし、自分の運動として関わってきたのだ。だから私もそのようにし、安心して一緒に走り続けられた。

運動は人間関係を作るところではない。だけど集まればそれはできる。この関係性はいろいろ難しいことも伴う。でも楽しいことの方が多い。少なくとも反天連ではそうであった。

少しだけ無理をする。これは怠け者の自分に時々ささやいてきたことだ。今では少しくらい無理をしても、今までどおりのこともできない。自分（たち）も、運動のありようも、メディアも変わる。新しい動きは少しずつでも現れる。当たり前のことだ。そしてどのように変わろうと、私の反天課題は残るし、自分なりにできることを考えていきたい。

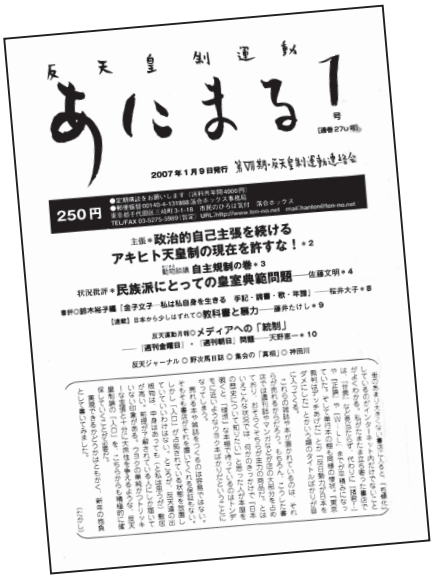
反天連は運動の過程で膨大な文字を残している。それを誰もが読めるような形にして残していきたいというのは、まだ反天連解散が具体的でなかったころ、五、六年前からの構想だった。構想はもっとデカかったのだが、できるところから……。それがこれからの反天皇制運動に役に立つのかどうかは、使う人が決めることで、必要と思われた時に「ある」ことが大切、と思っている。相談しあったりしてはいたものの、実際は手をつける余裕など皆無だった。解散後にぴったりの企画だ。長丁場となるのは間違いないし早く始めなくてはと焦る。一方で、新しい情報発信も諦めたくない。新旧ないまぜの仲間と一緒にやれれば嬉しい。

私の「運動〈経験〉」

中村ななこ

運動圏のメディアを制作することを最初の取っかかりとして運動に参加し始めたのは、二〇〇〇年のことだった。ヒロヒトXデーもとっくに終わっており、そもそも私は自分が運動を実際にするとは思っていなかった。いや、社会的な関心がなかったわけではない。小学生のときに七〇年安保闘争をテレビで見て、私は大学生になったら「〝アレ〟をやるのだわ！」と思ってもいた。でも勤めを辞めるまではできずにいた。なので、二〇〇一年に9・11があり、その後のイラク派兵反対デモに参加しながら、「〝アレ〟をしてるのだわ！」と内心びっくりしたのだった。

反天連に参加するようになり、この一八年余り、たくさんのメディア制作に携わることができた。特に『季刊「運動〈経験〉」』は私にとっては天皇制の勉強の場でもあった。天皇がいることに反対ということは思っていても、その歴史や運動の流れというものにはほとんど触れたことがなかった。それでも、その他の運動との関わりのなかでも天皇制の存在を感じたり、実際に経験していない運動の報告や解説を読んだり


反天皇制運動
あにまる1号
（通巻27ハ号）
2007年1月9日発行 第XIII期・反天皇制運動連絡会
250円
●定期購読をお願いします（年料月千円＝6000円）
●郵便振替00140-4-131988 ふるさと・ノラと集団
東京都千代田区一ツ橋2-3-18 市民のひろば気付 ふるさと・ノラと
TEL/FAX 03-5275-3969（事務） URL:http://www.hi-ho.ne.jp/ mail:hanten@fon-no.net
主張＝政治的自己主張を続けるアキヒト天皇制の現在を許すな！＊2
新刊紹介 自主規制の巻＊3
状況批評＊民族派にとっての皇室典範問題——佐藤文明＊4
書評○鈴木裕子編『金子文子・私は私自身を生きる 手紙・調書・歌・年譜』——桜井大子＊8
〔連載〕日本から少しはずれての教科書と暴力——藤井たけし＊9
反天運動月報○メディアへの「統制」
——「週刊金曜日」・「週刊朝日」問題——天野恵一＊10
反天ジャーナル ○野次馬日誌 ○集会の「真相」○神田川

視えないが・たぶん・おそらく・そこにある「意志」：）

蝙蝠

聞いたり、歴史的な文献を読んだり、文章も時々書くことによって少しずつ勉強をしていった。あまり勉強好きではない私にはかなりしんどい作業でもあったけど。

天皇に関する行事に合わせて私たちの運動もスケジュールが組まれ、その合間に別の運動への参加、雑誌やニュースの制作をこなしていく、という過酷な日々。みんなヘロヘロしながらも、作業の時間は泣き笑いの楽しいものだった。そうやって私の中にも少しずつ積み重ねができ、疲労はしつつも充実した時間を過ごしていたのだが、なんということか。私は病気に罹っていたのを見過ごしてしまった。二〇一三年夏に癌の手術を受け、その後に転移がわかって以降、今も治療を続けながら共存状態が続いている。たくさんの方にご心配をおかけし、助けていただいた。おかげさまで身体の調子が悪くないときは、集会に出たりニュース作業を手伝ったりできるようになった。それでもデモなどの行動は控えなければならないという状況のなかで、今回のXデーを迎えることになった。初めのころは集会などには参加していたのだが、今度は新型コロナウイルス感染が拡がってきた。感染リスクを避けたい私はまた外出がしにくい状況になってしまった。

そう。私はまたしても今回のXデー闘争に参加することができなかったのだ！　やっぱりこを目指していたのだ。天皇制そのものにも、そして代替わり一連の儀式などに大きな声をあげる、街頭に出て「天皇制はんたい～！」をやりたかった。反天連だけで闘争を行うわけではもちろんないが、テレビで代替わりの儀式や関連の報道があるたびにギリギリし、決して若くはない仲間たちがどんどん忙しくなる闘争の状態が聞こえてくるにしたがって、やはり参加できない悔しさが募る。それでも行われている行動の最中に仲間からの途中経過が入ったり、終わると写真を送ってくれたり、一緒に気分を味わう場面もあって嬉しかった。

私にとって天皇制反対の運動は、大事な場面でその闘いのほとんど体験をすることができなかったのだ。でも今回も、そして以前の運動も先人や仲間たちの書いたもの、話したものを通してそれを実感として味わうことができる。それこそ、「運動〈経験〉」なのだ。

運動の先細りが言われて久しい。事実、反天連もその波を受けているのだ。続けられなくなっているメディアも多い。でも反天皇制の運動がなかったことにされてしまうのだけは避けなければならない。どういう事実があり、それをどのように解釈し、これからの反天皇制の運動を繋げていくか。それを教えてくれるのはそういった言葉である。メディアをなくしてはいけない。ほっておけば、この運動の歴史は埋もれてしまうのだ。その発信の仕方は変わっても、過去のものも現在進行形のものも言葉にして残していかなくてはならないと思う。それが私にとってもこれからを担う人たちにとっても、大事な「運動〈経験〉」になるのだと信じたい。

渡辺治が、近刊の『「平成」の天皇と現代史』（旬報社）で、「憲法の求める天皇像からの逸脱が激しくなっている」明仁とその時代における「天皇・天皇制批判ははるかに減少した」のはなぜか、

と書き起こしている。そう、まさに、裕仁の末期に際して、澎湃とわき起こった天皇への怒りと天皇制批判が緩やかに鎮められ、「平成の御代」への讃美に置き換えられるなかで天皇制が拡大していく過程こそが、私たちが一〇期にわたる反天皇制運動連絡会の活動をつづけてきた時代と思想の背景でもある。

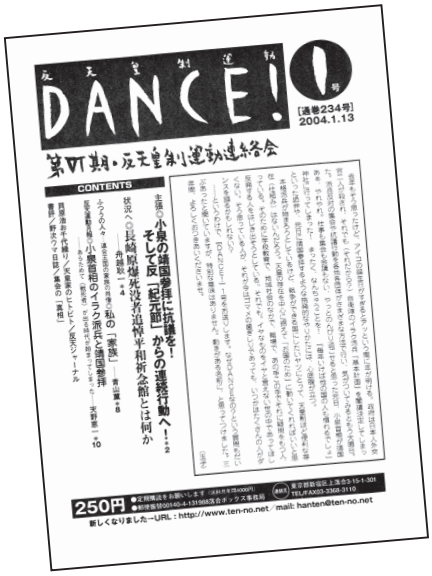
日本共産党が、今回の徳仁「即位」「代替わり」直後である二〇一九年六月四日付で、志位和夫委員長への小木曽陽司赤旗編集局長によるインタビュー「天皇の制度と日本共産党の立場」を「しんぶん赤旗」に掲載している（https://www.jcp.or.jp/web_policy/2019/06/post-807.html）。そこでは、同党が二〇〇四年の綱領改定で「君主制の廃止」を削除した理由や、これによる政党としての対応の変更についてあらためて述べられている。同党に対する「いまさら」意識とじぶん自身の怠慢もあり、読み流してブックマークにとどめるだけにして忘れていたのだが、この機会にすこしだけ触れておきたい。

志位は、天皇の「統治権」に対する憲法上の制限があるから日本は君主制ではなく、だから「君主制の廃止」は同党における「民主主義革命」の課題ではない、という。しかし、政党として、ときには目を瞠ることもあるほどには柔軟な現実対応能力を持っている日本共産党の、こういう形式論理に基づいた論の展開にこそ、その欠点が露わにされる。そしてこのことは、これまでにも数多の論者から指摘されてきたことでもある。

二〇〇四年の時期にはすでにもちろん、裕仁が戦後憲法体制下にありながらその拘束を無視し、たびたび政治的権限を行使した歴史は明らかであり志位もふれている。そしてこうした裕仁の実績を引き継いで、明仁が天皇の権限を大幅に拡大し「前例」として定着させているという事実は、すくなくとも今回の代替わりの過程においてはっきりと示されていた。明仁および美智子は、それまでの天皇にはなかった規模で「国民」との直接的な交流を重ね、「リベラル」派の専門家からの情報の蓄積とともに認識や彼らとの関係を深めることで、「象徴天皇」を天皇自身の嚢中のものとして確立したのである。「代替わり」のこの時期だからこそ、批判的・対抗的な立論を提示しなければならなかったし、それはできたはずなのだ。

天皇に対する制度的な制限は、現行憲法のみならず「諸法度」など近代以前の法体制においても明確に意識されてきた。彼らの身内における邪心や抗争、それを直接間接に利用しようとした連中の行動が、古代から近現代に至るまで幾度もクーデターや「国」をあげての戦争として現れたのだから当然だ。だからこそ、現実に起きていることをビビッドに認識し対応することがつねに重要なのだ。「天皇の制度」の存在が、「社会進歩の事業とのかかわりでも、戦前のような障害にはなりえない」（志位和夫）とする明言は、事実認識において誤っており、その影響力からも有害だ。

憲法については、一章も含め「現行憲法の『全条項をまもる』とスッキリと打ち出せるようになった」とするが、こと天皇制において現行憲法は、「象徴」定義などその成立経過の及ぼした事情にかかわる問題もあるし、身分制や世襲制、性差別の存在という明瞭な矛盾を内包している。憲法を生かすというならば、これらの矛盾が社会的な制度や関係にまで及ぼしている現実に、より具体的に着目していかなければならない。憲法じしんに織り込まれた「矛盾」や、それが成立した経過、さらにこの矛盾を維持するために歪められたさまざまな事柄を、注視し、これを批判することで、あるべき何ものかを目ざしていくという志向、政治により「実現」されうるものを等閑視してはならないはずだ。それが「スッキリ」していると思えるなら、まちがいなく政治や思想の頽廃だろう。「伝統」の名目で信教の自由原則を損なう皇室神道の儀式を批判


反天皇制運動
DANCE!
1号
通巻234号
2004.1.13
第11期・反天皇制運動連絡会
CONTENTS
主張 小泉の韓国参拝に抗議を！そして反「紀元節」からの連続行動へ！…2
状況への長崎原爆死没者追悼平和祈念館とは何か
舟越歌一…4
私の「家族」
青山薫…8
反天皇制集会 小泉首相のイラク派兵と国会参拝
あらたに「靖国」とどう闘うか
天野恵…10
見聞・連帯・情報 ／ 「天皇家のこどもたち」（反天ジャーナル）
書評／野坂クロ日記／集会の「案内」
250円
●定期購読をお願いします（1年分8冊分2000円）
●郵便振替口座00140-4-131986反天ジャーナル事務局
郵便 東京都新宿区上落合3-15-1-301
TEL/FAX03-3368-3110
新しくなりました→URL：http://www.ten-no.net／mail: hanten@ten-no.net

しながら、「代替わり」に際して「憲法の原則にふさわしい行事にすべきという立場」を表明する前に、わざわざ「天皇制反対の立場ではなく」を付け加えているのは、文章表現の問題ではない。

●

かつて、八〇年代に反天皇制運動連絡会の活動を開始したときに、それまでの活動体験や思想においてさまざまな違いを持った私たちは、いくつもの「学習会」で資料を読み、なかには日本共産党の綱領の変更に関するものも多くあった。残念ながら時も経って記憶するところは少ないが、政党や党派に関りを持たなかった私も、彼らのコトバと路線の選択について強く印象づけられ学ぶものはあった。

その後の社会はさらに大きく動き、当時はぼんやりした頭で「公正」や「平等」などの価値は、「進歩」の方向で緩やかに変化するものと念じていたのだが、世襲や「血」の身分、民族や性差別が、経済制度や身内意識など入り組んで構成されながら、明らかなネポティズムの「特権」としてむしろ拡大していっている。選挙や試験なども、その定着のために利用されている。「皇室典範」の改変が近いうちに政治的な重要課題として上るが、これは、もちろん天皇一族の「家法」ではなく、改憲の内実、憲法のあり方と民主主義の実質を問うものとして捉えられなければならない。

私たちは、このかん、シングルイッシューのみの活動グループとしてではなく、さまざまな課題とともに天皇制の問題を提起してきた。決して「天皇制こそが根源的だ」という突きつけ方をせず、さまざまな重要課題とともに、常にそれがある、ということを提起してきたはずだ。

ウヨク暴力団たちに囲まれ攻撃されるとき、「コーロセ・殺せ・ハンテンレン」と連呼される。そのつど、反天皇制運動連絡会のメンバーではないうえ、そうとうに立場の異なる参加者たちに対して「申しわけない」気分はなお覚える。しかし、反天皇制運動連絡会が解散する今だからこそ、胸にとどめていてもらいたい。「ハンテンレン」は世界にあまねく生きているのだと。

反天皇制運動
モンスター
1号
（通巻307号）
2010年2月2日発行
250円

雑記・反天連周辺をうろついてきて今思うこと

反天連周辺・中嶋啓明

私が反天連の活動の一端に触れるようになったのは、おそらく20年ほど前からだったように思う。仕事で地方を回っていた私が、転勤で東京に住み始め、それまで本の上でしか知ることのなかった反天連関連の集会やデモに直接、出向くようになった。反天連も関わって続いていた実行委の会議に恐る恐る顔を出し、いかにも百戦錬磨の活動家ばかりといった面々の中で、生来の人見知りが発動するのを何とか抑えながら、訳の分からない〝専門用語〟の飛び交うみんなの議論に青息吐息だったのを思い出す。

会議後には、酒飲みの場にも同席するようになり、実行委での活動を何度か繰り返すうちに、反天連のメンバーともそれなりに話ができるようになったころ、反天連への参加を打診された。なんとなく成り行きで定期的な会議に出席し、そのまま成り行きで周辺をうろつくようになっていた。

始まりから無責任な姿勢だった。だから、その後、自分や家族の体調を口実に活動をサボり

反天皇制運動
カーニバル
250円
1号
[通巻344号]
2013年4月16日発行
反天皇制運動連絡会

始め、今に至ってしまっている。申し訳なさでいっぱいで、今ここに書く機会を与えられて恐縮するほかない。急遽、でっち上げた駄文で許していただけたらありがたい。

◆

天皇（制）について少しばかり意識し始めたのは、大学生のころだったと記憶する。本多勝一の書いたものを呼んだのがきっかけだったのでは、と振り返って思い出す。

しばらくして職に就き、勤務先の地方都市で裕仁のXデーを迎えた。下血報道に直接、加担はしなかったものの、職場から東京の応援に長期間、人を出し、マスメディアの一員として、あのグロテスクな自粛騒動を創り出した天皇報道の渦の中にいた。当時、同僚や同業他社の仲間と小さな勉強会を持ち、天皇制や自粛騒ぎに疑問や反対の声を上げる人々の動きを極力、拾おうとしたが、蟷螂之斧にもなっていなかった。Xデー当日には、仲間と語らって、集会を開こうと会場を借りたが、稚拙な宣伝で参加者はほぼゼロだった。

その後、社内などで折に触れ、天皇・皇室報道の異常さを問題提起することはあったが散発的で、同僚の中に仲間を募るなど、足下で運動的に取り組む営為を怠ってきたと反省している。

天皇（制）は、これからどこへ向かおうとしているのだろうか。眞子の結婚をめぐるスキャンダルは、かなり天皇制の根幹を揺さぶっているように思う。美智子の皇室入りをめぐる右派からの攻撃や、雅子の体調不良に端を発した様々なバッシングなど、これまでのスキャンダルとは少々、質が違ってきているように感じられる。

〝開かれた皇室〟を推し進めていく過程で必然的に生じた小さな擦り傷の数々が、徐々に天皇制を蝕んできていたのだろうとは思う。経済、社会のグローバル化に伴う〝日本人〟の文化、生活習慣の変容が、身体のあちこちにできた〝歪〟を、少しずつ押し広げてきているのだろう。神社本庁をめぐる少なくない事件や騒動からも、そんな様子が透けて見えるように思う。右派メディアを中心にした既存のメディアによるバッシングはまだ、コントロールできた。だが、ネットの普及による影響はおそらく、天皇（制）の側の想定を超えているのではないか。

そこにコロナ禍が追い打ちをかけた。ヴァーチャル・リアリティによっては満たすことのできない不安に駆られた民衆を、直接の触れ合いを演出することで慰め、癒すことができるかのように錯覚させる天皇（制）の最大の武器は今、封じられてしまっている。何とかその武器を取り戻そうと画策しているのだろうが、今のところ得策は手にし得ていないように見える。

「分断」がより目に見えるようになり、周縁に追いやられていたマツロワヌ人々を、さらにその周縁の外へ追い落とす動きはこの間、ますます強まっている。マツロウ人々を内に引き寄せ、懐に抱かれていると思い込ませる統合機能の強化は、向こう側にとって待ったなしの最重要課題だ。なのに、その機能に綻びが目立ち、ウソに気づく人の発信力は上がっている。統合力にはかなりの陰りが見えてきているように感じる。

「反天連」の存在意義は、かつてないほどに高まっているように思う。

季刊 運動〈経験〉
① 2001春
編集●反天皇制運動連絡会
◆戦争・戦後責任の現在
NHKによる「女性国際戦犯法廷」ドキュメント番組の改ざん問題の真相をめぐって
松井やよりインタビュー
「女性国際戦犯法廷」を支えた多様な人たち
「天皇の戦争責任」
「海外進出文学」論のモチーフと方法
池田浩士著『火野葦平論』をめぐって
グローバリゼーション下で象徴天皇制はどう再編されているか
国家戦略としての「教育改革」の展開
社会評論社

「これはある原稿の続きです」

北野誉

ヒロヒト「Xデー」状況との対決を掲げて結成された反天連は、一連の「代替わり」過程を経て解散した。その後は、一期三年をメドに、その時期の課題を設定し、結成―解散―再結成というサイクルを続けて今に至った。

第一期反天連の解散と第二期のスタートにあたっては、ヒロヒト「Xデー」をともにしたいくつかの地域や課題のグループの人とともに、会議を持ち、反「Xデー」闘争の総括を踏まえて議論した。反天連内部でも議論がないわけではなかったが、一期に参加した事務局メンバーのほとんどが、二期にも合流していった。まだ運動的余波は十分残っていた。

第二期以降はアキヒト（ミチコ）天皇制との対決の時期ということになるが、ヒロヒトでは不可能だった「戦争責任」を清算するイメージ、護憲発言、ヒロヒトの天皇誕生日を「みどりの日」に衣替えするなど「クリーンでグリーン」な打ち出しで登場した新天皇こそ、象徴天皇制の核である「非政治の政治」を体現するものである、これから新たな段階の象徴天皇制との闘争が始まると思われた。

アキヒト天皇制は、九〇年代後半ごろを境に、こうしたイメージを確立させ、その上に「国民の天皇」としての権威性を備えた存在として登場し始める。NHKの世論調査などでも、「親しみ」が第一位だったのが、次第に「尊敬」が増え、ついに逆転することになった。もちろん、それらは、国家的統合装置として天皇に要請される役割が、時代の推移に応じてその重点が異なり、天皇自身が自ら戦略的にそれを演じ、担ってきたということだろう。

さて、反天連である。組織の存続のみを持って運動の成否を測る立場にわれわれは立たなかったが、運動の世代的な継承がうまくいかなかったことは事実である。というか、それ以上に、反天皇制運動という課題を「平時」において追求することの難しさを感じないではいられなかった。

今回の「代替わり」はまさにそうだが、在位××周年式典反対闘争、国体・植樹祭・海づくり大会など現地闘争への参加、あるいは右翼の激しい攻撃に見舞われ続けた反天実のデモなど、いわば「有事」の闘争とは区別される、時間的にははるかに長い「平時」の闘争の意味である。

「有事」と「平時」を切り離さないこと。その間をつなぎ往還していくこと。

この課題を十分解くことのできないまま、反天連という「歴史的産物」は解散することになった。だが、共同で解かれるべき問いがなくなったわけではない。長い間ありがとうございました。

反天皇制運動
Alert
1号
[通巻383号]
2016年7月12日発行
250円

【資料】

反天皇制運動

各期反天連設立時に立てた「主旨・設立の目標」

第Ⅰ期　「反天皇制運動」　1984.3～1991.2

①主要に、Xデー及びXデー準備と対決する大衆的反天皇制運動の形成をめざす。

②反天皇制の諸運動に関わる情報の交換―分析、経験交流、学習を行う。

第Ⅱ期　「反天皇制運動 SPRITS」　1991.4～1994.3

①主要に、マス・メディアの賛美に支えられた象徴天皇制の国家儀礼と持続的に対決する、大衆的反天皇制運動の形成を目指す（期間はとりあえず3年とする）。

②反天皇制の諸運動に関わる情報交換―分析―体験交流、学習を日常化し、自立した運動―メディアと闘いのネットワークの拡大とレベルアップを目指す。

第Ⅲ期　「反天皇制運動 NOISE」　1994.5～1997.5

①主要に、マス・メディアの賛美に支えられた象徴天皇制の国家儀礼と持続的に対決する、大衆的反天皇制運動の形成を目指す。

②「皇室外交」を軸とする派兵国家作りと連動する天皇制の動きと対決し、反戦・反派兵と合流する反天皇制運動を目指す。

③反天皇制の諸運動に関わる情報交換―分析―体験交流、学習を日常化し、自立した運動―メディアと闘いのネットワークの拡大とレベルアップを目指す。

④期間は3年間に限定する。

第Ⅳ期　「反天皇制運動じゃーなる」　1997.7～2000.8

①マス・メディアの賛美に支えられた象徴天皇制の国家儀礼に対し、天皇制の戦争責任・戦後責任という問題を常に掘りおこし、持続的に対決する大衆的な反天皇制運動づくり。

②「有事体制」に向かう動きと対決し、各地の反派兵・反安保・反基地運動と「連帯」しうる反天皇制運動づくり。

③反天皇制運動相互の豊かなネットワーク、そして他テーマの運動との有機的連携をつくりだすパワーアップした運動のメディアづくり。

④八〇年代からの反天皇制運動の歴史的な体験を思想的に対象化する作業の持続。

第Ⅴ期　「反天皇制運動 PUNCH!」　2000.10～2003.10

①国体・植樹祭・海づくり大会などをはじめとした、マス・メディアの賛美に支えられた象徴天皇制の国家儀礼、天皇訪韓（「皇室外交」）問題などに対し、天皇制の戦争責任・戦後責任という問題を常に掘りおこし、持続的に対決する大衆的な反天皇制運動づくり。

②「有事体制」に向かう動きと対決し、各地の反派兵・反安保・反基地運動と「連帯」しうる反天皇制運動づくり。

③アメリカ中心のグローバル化が必然化している支配者の「明文改憲」の動きと対決する反天皇制運動づくり。

④反天皇制運動相互の豊かなネットワーク、そして他テーマの運動との有機的連携をつくりだすパワーアップした運動のメディアづくり。

⑤80年代からの反天皇制運動の歴史的な体験を思想的に対象化する作業の持続。

第Ⅵ期　「反天皇制運動 DANCE!」　2003.12～2006.12

①国体・植樹祭・海づくり大会などをはじめとした、マス・メディアの賛美に支えられた象徴天皇制の国家儀礼、「皇室外交」、「昭和」賛美などに対し、天皇制の戦争責任・戦後責任という問題を常に掘りおこし、持続的に対決する大衆的な反天皇制運動づくり。

②「恒常的派兵」国家に向かう動きと対決し、各地の反派兵・反安保・反基地運動と「連帯」しうる反天皇制運動づくり。

③アメリカ中心のグローバル化が必然化している、「女帝」問題を含めた支配者の「明文改憲」の動きと対決する反天皇制運動づくり。

④「日の丸・君が代」強制、教育基本法改「悪」、国家による死者の追悼に抗する反天皇制運動相互の豊かなネットワーク、そして他テーマの運動との有機的連携をつくりだすパワーアップした運動のメディアづくり。

⑤80年代からの反天皇制運動の歴史的な体験を思想的に対象化する作業の持続。

第Ⅶ期　「反天皇制運動あにまる」
2006.12～2009.12

①国体・植樹祭・海づくり大会などをはじめとした、マス・メディアの賛美に支えられた象徴天皇制の国家儀礼、「皇室外交」、「昭和」賛美などに対し、天皇制の戦争責任・戦後責任という問題を常に掘りおこし、持続的に対決する大衆的な反天皇制運動づくり。
②アメリカに引きずられて「恒常的派兵」国家に向かう日本政府の動きと対決し、各地の反派兵・反安保・反基地運動と「連帯」しうる反天皇制運動づくり。
③アメリカ中心のグローバル経済化と多国籍化している日本企業の要請する派兵国家化がつくりだす「明文改憲」の動きと対決する反天皇制運動づくり。
④「日の丸・君が代」強制、天皇制の安定継承のための皇室典範「改正」、教育の国家による統制、国家による死者の追悼に抗する反天皇制運動相互の豊かなネットワーク、そして他テーマの運動との有機的連携をつくりだすパワーアップした運動のメディアづくり。
⑤80年代からの反天皇制運動の歴史的な体験を思想的に対象化する作業の持続。

第Ⅷ期　「反天皇制運動モンスター」
2010.1～2013.2

①国体・植樹祭・海づくり大会などをはじめとした、マス・メディアの賛美に支えられた象徴天皇制の国家儀礼、「皇室外交」、「昭和」賛美などに対し、天皇制の戦争責任・戦後責任という問題を常に掘りおこし、持続的に対決する大衆的な反天皇制運動をつくる。
②「恒常的派兵」国家に向かう日本政府の動きと対決し、各地の反派兵・反安保・反基地運動と「連帯」しうる反天皇制運動をつくる。
③「日の丸・君が代」強制、天皇制の安定継承のための皇室典範「改正」、教育の国家による統制、国家による死者の追悼、そして「改憲」に抗する反天皇制運動相互の豊かなネットワークづくりと、他テーマの運動との有機的連携をつくりだすパワーアップした運動のメディアづくりを目指す。
④多国籍化する日本企業の要請する「東アジア共同体構想」に反対し、戦争責任の「清算」を目指す天皇訪韓に反対する。
⑤予想されるXデーおよびXデー状況との闘いを準備する。
⑥80年代からの反天皇制運動の歴史的な体験を思想的に対象化する作業の持続。

第Ⅸ期　「反天皇制運動カーニバル」
2013.3～2016.5

①「全国戦没者追悼式」や「震災追悼式」をはじめとする、マスメディアに支えられた国家による追悼儀礼、天皇出席の国体・植樹祭・海づくり大会などの天皇儀礼、「皇室外交」や「昭和」の賛美などと持続的に対決する大衆的な反天皇制運動づくり。
②「天皇元首化」や「日の丸・君が代」を明記し、立憲主義を否定する国家主義的な改憲策動と対決する。
③原発推進、「日米同盟」の強化、「恒常的派兵」国家化などに向かう日本政府の動きと対決し、各地の反原発・反安保・反基地運動と「連帯」しうる反天皇制運動をつくる。
④天皇制国家の植民地支配、戦争・戦後責任、「領土ナショナリズム」や差別・排外主義を撃つ闘い、治安弾圧、「日の丸・君が代」強制、天皇制の安定継承のための皇室典範「改正」、教育の国家による統制などに抗する運動などとの豊かなネットワークづくりと、他のテーマの運動との有機的連携をつくりだす運動のメディアの強化。
⑤80年代からの反天皇制運動の歴史的な体験を思想的に対象化する作業の持続。

第Ⅹ期　「反天皇制運動 Alert」
2016.6～2021.6

①「全国戦没者追悼式」や「震災追悼式」をはじめとする、マス・メディアに支えられた国家による追悼儀礼、天皇出席の国体・植樹祭・海づくり大会などの天皇儀礼、「皇室外交」や「昭和」の賛美などと持続的に対決する大衆的な反天皇制運動をつくる。
②「天皇元首化」や「日の丸・君が代」を明記し、立憲主義を否定する国家主義的な改憲策動と対決する。
③原発推進、「日米同盟」の強化、「恒常的派兵」国家化などに向かう日本政府の動きと対決し、各地の反原発・反安保・反基地運動と「連帯」しうる反天皇制運動をつくる。
④天皇制国家の植民地支配責任、戦争・戦後責任、「領土ナショナリズム」や差別・排外主義を撃つ闘い、治安弾圧、「日の丸・君が代」強制、天皇制の安定継承のための皇室典範「改正」、教育の国家による統制などに抗する運動などとの豊かなネットワークづくりと、他のテーマの運動との有機的連携を作りだす運動のメディアの強化。
⑤予想される明仁天皇「Xデー」および「Xデー」状況との闘いを準備する。
⑥80年代からの反天皇制運動の歴史的な体験を思想的に対象化する作業の持続。

野次馬日誌

3月1日～5月1日

【3月1日】

徳仁、雅子◆赤坂御所で、復興庁の由木文彦・事務次官らから、東日本大震災の被災地復興状況に関する進講を受ける。

園遊会◆宮内庁が、新型コロナウイルスの感染拡大のため、天皇、皇后が「主催」する春の園遊会を実施しないと発表。

皇居・乾通り◆宮内庁が、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、春恒例の皇居・乾通りの一般公開を、実施しないと発表。

【3月4日】

徳仁、雅子◆東日本大震災の発生から10年を迎えるのを前に赤坂御所で、岩手県の被災者をオンラインで見舞う。

百合子◆宮内庁が、聖路加国際病院に1日から入院していた皇室最高齢の故三笠宮の妻百合子が退院したと発表。

【3月7日】

久子◆京都市の国立京都国際会館で開会した「第14回国連犯罪防止刑事司法会議」（コングレス）に出席。

【3月11日】

東日本大震災追悼式◆東京都千代田区の国立劇場で、政府が主催する東日本大震災の追悼式が2年ぶりに開かれる。徳仁、雅子が初めて出席。菅義偉首相や遺族代表ら計約210人が参列。地震発生時刻に合わせて黙とう。徳仁「これからも私たち皆が心を合わせて、被災した地域の人々に末永く寄り添っていくことが大切であると思います」。／加藤勝信・官房長官が記者会見で、政府が主催する東日本大震災追悼式について今回までとする考えを重ねて表明。明仁、美智子と、愛子がそれぞれ住まいで黙とう。

【3月16日】

皇位継承策◆政府が安定的な皇位継承策を議論する有識者会議の設置を発表。メンバーに清家篤・日本私立学校振興・共済事業団理事長（前慶応義塾長）、冨田哲郎・JR東日本会長ら6人を起用。専門家へのヒアリングを順次実施する。

【3月17日】

徳仁、雅子◆赤坂御所で、東日本大震災の発生から10年が経過した宮城県の被災者をオンラインで見舞う。

【3月20日】

悠仁◆悠仁が赤坂御用地の宮邸で、北九州市主催の「第12回子どもノンフィクション文学賞」のオンライン表彰式に出席。応募した作文「小笠原諸島を訪ねて」が佳作となり、「大変うれしく思います」と画面越しに語る。

「春季皇霊祭・神殿祭の儀」◆菅義偉首相が、皇居で行われた「春季皇霊祭・神殿祭の儀」に出席。

【3月23日】

徳仁、雅子◆皇居・宮殿「松の間」で、学問の「第一人者」から講義を受ける「講書始の儀」に臨む。新春恒例の行事として、当初は1月12日に実施予定だったが、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、約2カ月延期された。

皇位継承策◆政府が、安定的な皇位継承策を議論する有識者会議の初会合を首相官邸で開く。専門家から意見聴取する項目として10点を確認。女性・女系天皇や、女性皇族が結婚後に皇族を離れる現行制度、旧宮家（旧皇族）男系男子子孫の皇籍復帰の是非が含まれる。座長に清家篤・前慶応義塾長を互選。

【3月26日】

歌会始の儀◆新型コロナウイルスの感染拡大を受け、約2カ月延期となっていた宮中行事「歌会始の儀」が、皇居・宮殿「松の間」で開かれ、徳仁、雅子や秋篠宮、紀子ら皇族らが出席。天皇が特別に招いて歌を披露する召人は、小説家で文化功労者の加賀乙彦が務める。

【3月31日】

徳仁、雅子◆この冬の大雪などで甚大な被害を受けた北海道、青森、岩手、秋田、山形、新潟、福井の7道県に、宮内庁を通じて見舞金を贈る。

【4月3日】

愛子◆赤坂御所で、在籍する学習院大（東京都豊島区）の1年遅れの入学式にオンラインで参加。

【4月6日】

徳仁◆皇居内の生物学研究所脇にある苗代に、うるち米のニホンマサリと、もち米のマンゲツモチの種もみをまく。

【4月8日】

眞子結婚スキャンダル◆眞子と婚約が内定している小室圭が公表した家族の金銭問題を説明する文書について、宮内庁が「文書を読まれていろいろな経緯があったことを理解してくださる方がいらっしゃればありがたい」との眞子のコメントを明らかに。宮内庁の加地隆治・皇嗣職大夫が定例記者会見で説明。文書は眞子と小室側が相談した上で、8日に公表されたとして、母親と元婚約者の金銭トラブルに際し、話し合いをせずに金を渡して解決する選択を取らない方針が記されており、加地大夫「（眞子の）意向が大きかったと聞いている」。秋篠宮、紀子が文書を「問題を解決するために行ってきたいろいろな対応が『見える形』になるように努定している小室圭が、週刊誌などで報じられている家族の金銭トラブルに関して、改めて説明する文書を公表。相手方との話し合いが「頓挫している」と明らかに。文書はA4用紙に本文は注釈含めて24枚。

皇位継承策◆政府、安定的な皇位継承策を議論する有識者会議（座長・清家篤・前慶応義塾長）の第2回会合を首相官邸で開く。専門家5人を呼んで初めての意見聴取。皇位継承資格を女系に拡大する是非について反対か慎重な意見が目立つ一方、女性天皇については賛否が割れる。「ジャーナリスト」の岩井克己、慶応大の笠原英彦教授（日本政治史）、桜井よしこ、皇学館大の新田均教授（神道学）、麗沢大の八木秀次教授（憲法学）が専門家として意見を述べる。

【4月9日】

眞子結婚スキャンダル◆眞子と婚約が内定している小室圭が公表した家族の金銭問題を説明する文書について、宮内庁が「文書を読まれていろいろな経緯があったことを理解してくださる方がいらっしゃればありがたい」との眞子のコメントを明らかに。宮内庁の加地隆治・皇嗣職大夫が定例記者会見で説明。文書は眞子と小室側が相談した上で、8日に公表されたとして、母親と元婚約者の金銭トラブルに際し、話し合いをせずに金を渡して解決する選択を取らない方針が記されており、加地大夫「（眞子の）意向が大きかったと聞いている」。秋篠宮、紀子が文書を「問題を解決するために行ってきたいろいろな対応が『見える形』になるように努

力したもの」と受け止めているようだと説明。延期となっている結婚関連行事について「しかるべき時期に説明があるのではないか」。

英王室◆英国のエリザベス女王の夫で、エディンバラ公のフィリップが、ロンドン郊外のウィンザー城で死去。

【4月12日】

徳仁◆宮内庁が、エリザベス英女王の夫フィリップが死去したことを受け、女王に弔電を出したと発表。

明仁、美智子◆エリザベス英女王の夫フィリップが死去したことを受け、女王に弔電を出す。

眞子結婚スキャンダル◆小室圭の代理人の弁護士が取材に応じ、母親の元婚約者との金銭トラブルで、小室側が相手に対し解決金を支払う意向があることを明らかに。

【4月13日】

徳仁、雅子◆宮内庁が、エリザベス英女王の夫フィリップが死去したことに伴い、徳仁、雅子が英大使館に弔問のため、側近トップの別所浩郎・侍従長を派遣したと発表。

天皇一家◆改修工事中の皇居・旧吹上仙洞御所を視察するため、皇居を訪れる。

【4月14日】

天皇、皇族◆宮内庁の池田憲治次長が衆院内閣委員会で、皇室への新型コロナウイルスのワクチン接種について問われ「接種順位については政府の方針に従い、皇室の方々のそれぞれのご意向に沿って実施できるように準備を進めていきたい」。皇室でワクチンを接種したことを公表するかについて「現在、検討中」。

秋篠宮、紀子、眞子、佳子◆赤坂御用地の宮邸で、東日本大震災で被災した子どもの支援活動を行っている「セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン」の幹部から、オンラインで「進講」を受ける。

【4月19日】

宮内庁御用掛◆宮内庁が、同庁御用掛の60代の男性非常勤職員が、新型コロナウイルスに感染したと発表。

【4月20日】

「内奏」◆菅義偉首相が、皇居で「内奏」。

【4月21日】

皇位継承策◆政府が、安定的な皇位継承策を議論する有識者会議（座長・清家篤・前慶応義塾長）の第3回会合を開き、歴史の専門家ら4人からヒアリングを実施。女性天皇を認めるべきだとの意見が多数出たほか、女性皇族が結婚後も皇室に残る「女性宮家」の創設を求める声も。今谷明・国際日本文化研究センター名誉教授（日本中世史）、所功・京都産業大名誉教授（日本法制文化史）、古川隆久・日大教授（日本近現代史）、本郷恵子・東大史料編纂所所長（日本中世史）が、専門家として意見を述べる。

靖国問題◆菅義偉首相が、東京・九段北の靖国神社で始まった春季例大祭に合わせて「内閣総理大臣　菅義偉」名で「真榊」と呼ばれる供物を奉納。

【4月22日】

眞子結婚スキャンダル◆小室圭が、金銭トラブルの相手に解決金を渡す意向を示したことについて、宮内庁の西村泰彦長官が定例記者会見で「（小室さん側からの連絡が）事前にありませんでした。事後も話を聞いていない」。

靖国問題◆菅義偉首相と全閣僚は、東京・九段北の靖国神社で21、22両日に開かれた春季例大祭に参拝せず。超党派の議員連盟「みんなで靖国神社に参拝する国会議員の会」の尾辻秀久会長（元参院副議長）が、靖国神社の春季例大祭に合わせ参拝。議連事務局長の水落敏栄・参院議員との代表参拝に。新谷正義・総務副大臣、池田道孝・農水政務官らが参拝。

【4月23日】

徳仁、雅子◆東京・永田町の憲政記念館で開かれた内閣府主催の「第15回みどりの式典」に出席。徳仁が式典であいさつし、新型コロナウイルス禍で社会や生活の在り方が変わったと述べ「私たちの社会や生活と密接に関わり、欠かすことのできない緑を守り、育むために必要な技術や文化について、考えていくことも大切なことではないかと思います」。

【4月27日】

明仁、美智子◆健康診断のため、住まいの仙洞仮御所（東京都港区）から、皇居にある宮内庁病院を訪れる。車で乾門から皇居内へ。

【4月28日】

徳仁、雅子◆赤坂御所で、東日本大震災の発生から10年を迎えた福島県の被災者とオンラインで面会。東京電力福島第1原発事故による帰還困難区域を抱える双葉町と大熊町の被災者と懇談。

「褒章」◆政府が2021年春の褒章受章者を発表。受章者は666人（うち女性181人）と19団体。29日に発令される。新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、徳仁と受章者との面会は、前年春と秋の褒章に続いて見送られる方向。

【4月29日】

「春の叙勲」◆政府が2021年春の叙勲受章者を発表。皇居での大綬章親授式と重光章伝達式は5月7日に予定していたが、新型コロナウイルス感染予防の観点から延期。

【4月30日】

佳子◆宮内庁が、佳子が5月6日付で全日本ろうあ連盟の非常勤嘱託職員として就職すると発表。2月末からインターンを続けており、テレワークで勤務する。赤坂御用地の宮邸で、全国の女性が考案した暮らしに役立つ発明品を紹介する「第53回なるほど展」（婦人発明家協会主催）をオンラインで観覧。

【5月1日】

皇位継承◆共同通信社が、世論調査結果をまとめる。皇位継承問題に関する質問で、女性・女系天皇を容認する声は80％以上だった。旧宮家を皇族に復帰させて男系・男子の天皇を維持することについては、「反対」と「どちらかといえば反対」が計67％、賛成意見は計32％。女性天皇について「賛成」と、「どちらかといえば賛成」は計87％。母方だけに天皇がいる女系天皇について、「賛成」、「どちらかといえば賛成」が計80％。

集会の「眞相」

日米安保を軸に沖縄・天皇制を考える」4・28―29連続行動

新型コロナ感染拡大で日本列島全体が揺れ始めているなか、「日米安保を軸に沖縄・天皇制を考える」4・28―29連続行動はなんとかやりとげられた。例年通り反天連もその実行委には呼びかけ団体として参加した。

緊急事態宣言が出た4月23日、4・28集会の会場である文京シビックセンターが閉館を発表。26日には、4・29デモの集合場所として予約していた千駄ヶ谷区民会館も閉館を発表。懸念していた事態ではある。昨年もまったく同じで、会場を使用できず28日の集会は中止、29日もデモ前集会を中止してデモのみを行った。

私たちにとってもいろんな意味で緊急事態。そして、28日の集会は会場が使えないので中止にせざるを得ないが、別の場所を用意して小規模学習会に変更する、29日は昨年同様、会館前集合でアピール交換は中止のデモのみ、ということに決まった。28日の学習会は、ひとえに講師の吉田敏浩さんの快諾があったからであり、感謝しかない（吉田さんには昨年の4・28で講師を依頼して中止となり、今年またお願いしていた）。参加者20人。

吉田さんからは、詳細なレジュメをもとに「米軍優位の日米地位協定と日米合同委員会の密約」という内容で、1時間ほどみっちりと聞くことができた。治外法権の域としてある米軍基地のその特権性がどのような構造で成立しているのか、緻密な資料分析をとおして見えてくる構造と、見えない隠された部分を明確に伝えてこられた。話はわかりやすく、改めて米軍基地問題の大きさと非道さ、日本政府は一貫してダメであったことなど、腹が立つほど再認識させられる学習会となった。4・28集会として開催し、たくさんの人たちに聞いてもらいたい話だった。ただ、文京シビックは開館していても「蔓延防止」で20時前には終了となっていたので、全体の時間は短く質疑も諦めるしかなかったが、会場変更と小規模学習会は悲しいが、質疑の時間や講師との交流の時間もそれなりに取れ、参加した人には嬉しい結果でもあった。

4・29反「昭和の日」デモは激しくはないがずっと雨。参加者60人くらい。直前の会場使えない告知と朝からの雨。それを思えば少ないとはいい難い。デモ中に右翼の街宣車に遭遇することはなかったが、渋谷から少し離れた路上に7台ほど警察に止められていた。やはり来ていたか。沿道では暴力的な右翼やカメラとトラメを持つネット系右翼が、公安や警察の間をすり抜けながら歩き、時々デモ参加者に沿道から飛びかかってくるといった事態も数回は確認している。先頭の横断幕を狙って飛びかかり奪おうとする右翼も。一瞬だがその時は騒然となり、横断幕を持つ人に怪我はなかったが、とても危険な事態だった。横断幕のポールはねじ曲げられた。またか……。

実行委は報告集を出して解散し、8・15行動の準備に入る。反天連の実行委呼びかけは4・28―29行動が最後となる。しかし、実行委は続く。これからもよろしく！（大子）

神田川

●特別号です。そして本当に最後だ。みなさま、よくぞおつきあいいただきました。辛くも楽しい時間、楽しくもウンザリな事々。織り混ざった長い期間、まあ、やってよかった。（木菟）

●37年間続いた生活習慣が終わる。その間は、私はいろいろな集まりの予定で「火曜日の夜は、私はダメよ！」で生きてきた。火曜日は七時過ぎからほぼ間違いなく私は参加しなければならない「反天連」の事務局会議があった。これから火曜日はアリか？（熊）

●反天連 解散告ぐる 特別号 メデたくもあり メデたくもなし◆三十年 去りゆくもあり 来るもあり 人間万事 塞翁が馬◆コロナ下の 酒なき店に クダ巻きぬ それにつけても 金の欲しさよ◆腹の立つことは幾たび ありしかど 彼も人なり 吾も人なり（羊）

●かつて仕事で会議に間に合わなくても、侃々諤々のなかに気づかれぬようこっそり滑りこみ、隅っこで「妖精さん」としてグラスを舐めていた。はじめはそんな関係意識だったのに、それから今まで「持続」したなんて言っていいのかな（蝙蝠）

●いろいろなことを学ばせてもらい、ありがとうございました。国家権力を相手に闘うことは、しんどい。それでも皆さんと共に声をあげることができてよかった。また何処かで。（桃色鰐）

●神田川という編集後記の名前は、実は事務所近くの飲み屋の名前。作業の最後の最後にページ数調整を兼ねて書くことがほとんどだった。最後の神田川に、反天連も本当に解散と実感する。（獏）

●本当に最後なんだね。いろいろなことを思い出しながらの作業でした。寂しくもあり、でもまたそれぞれが新しいスタートをするための最後なんだと。みなさんも身体には気をつけて！ またね！（貂）